

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	09	0402	教育普及活動事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	3	文化財の保護と活用			
目的	博物館事業の教育普及活動					
対象	市民、児童・生徒、教師					
意図	市内小中学校の児童生徒に博物館での学習を通じて、ふるさとの歴史文化への興味と関心を深め郷土を愛する心を養う。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<input type="radio"/> 資料収集活動事業 <input type="radio"/> 調査研究活動事業 <input type="radio"/> 展示活動事業 <input type="radio"/> 教育普及活動事業 博物館と学校教育の連携による調査・研究 体験学習・各種講座の開催						
市民参画の有無 [ 対象外 ]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	講座開催回数	回	計画	20	13	
			実績	27	32	
②	体験学習開催回数	回	計画	18	16	
			実績	20	27	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	講座受講者数	人	目標	600	290	
			実績	775	974	
②	体験学習受講者数	人	目標	250	300	
			実績	380	625	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	<input type="radio"/>	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
展覧会と運動した市民に関心の高い講座を開催した。夏休みや冬休みの期間中に地域子供会からの要望に応じた博物館での体験学習が増加した。 博学連携では、小学校の社会科の授業を念頭に出席事業のメニューを作成したことから、先生方への積極的な働きかけもあり出席授業の回数が増加した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	博物館と小・中学校との連携は、博物館学習に対する意欲の向上とともに、郷土の歴史・文化に対する興味関心を高めることにつながり極めて妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	各種講座や体験学習において、受講者のニーズや時代に即応した内容を考えることで充実を図っていく。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	講座・体験学習とも地域の文化に則した内容であり、専門的な知識や技術を有した人材が必要である。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	講座・体験学習とも基本的に受講、参加に制限はなく、費用についても実費となる材料費のみの負担である。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
話題性のある新たな講座を取り上げ、メニューの充実を図った。体験学習や出席講座を通じて、多くの市民が花巻の歴史や文化への知識を深めるだけでなく、地域におけるその担い手として学習の機会を得た。		

平成 27 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 教育部 課名 博物館 担当係長 小原克仁 内線 32-1030

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	09	0402	教育普及活動事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,687	1,755		68
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他	87	76		△ 11
	一般財源	1,600	1,679		79

事業期間	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-------	------	-----------------

部重点施策における目標

地域の歴史や文化財、民俗芸能の保護と活用

事業開始の背景・経緯

博物館・資料館は、市民に郷土の歴史・文化を学び興味と関心の向上を図る機関として市民からの要望のもと建設された。展示内容をより理解しやすくするため毎年展覧会・各種講座及び体験学習を展開している。

事業概要

- 資料収集活動事業
  - 調査研究活動事業
  - 展示活動事業
  - 教育普及活動事業
- 博物館と学校教育の連携による調査・研究  
体験学習・各種講座の開催

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

小学校が博物館を訪れ学習活動を行う際、博物館が用意した見学内容に加え、各学校の地域の歴史や文化を学ぶことで学習効果が高まる。理解には学校側において児童への事前指導が重要であり、どのように博物館を利用した学習内容を設定するか、博学両担当者による検討が必要である。

講座や体験学習については、参加者からは概ね好評を得ているが、博物館資料を基軸としたメニューを再構成し、その内容の検討と実施に努める。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

